

解答

- 問一 道具は壊れてから捨てるという考え。 問二 エ
- 問三 (ア) (この) 土器はなぜ完全なままで捨てられたのだろうか
(イ) なぜたくさん土器が一か所に捨てられたのだろうか
- 問四 (ア) 小林 新しい文様や形の土器と入れかえるために、使えるにもかかわらず捨てた。
筆者 使っていくうちに道具としての機能が低下したので捨てた。
(イ) 小林 モデルチェンジの目的でそれまで使っていた土器をいっせいに捨てた。
筆者 土器を捨てる場所が決められていた。
- 問五 (ア) 9〔段落〕 (イ) 7〔段落〕 問六 エ
- 問七 ア 文様や形 イ 道具として作られ、使われてきた場面
- 問一 車の処置のことで頭がいっぱいなのに、慎がすぐ自分の言うことをきかずにもたもたしているの、苛立ったから。
- 問二 手塚治のサイン本が母に見つかれば、学校に持っていく理由を聞かれ、友だちに命令されたことがばれてしまうかもしれないから。
- 問三 (3) は言おうとしたことをこらえるという意味で、(4) は理解するという意味。
- 問四 母は、自分がうそをついていることを見ぬいていながらも、毎日の生活で苦勞をかけている自分に申し訳なく思い、うそを見のがしてくれたのだと思い、母にあまり心配をかけないようにしようと思っている。
- 問一 サボテンのただ置かれていてのんびりしている様子。
- 問二 日常生活に不平や不満があり、だれかに聞いてもらいたいと思っているから。
- 問三 母に、私と父は手がかかると言われているようで、居心地の悪さを父と共有しようとしたから。
- 問四 知る者は言わず、言う者は知らず。

解説

- 問一 傍線(1)の直前を読むと「この疑問は～わたしたちの生活感覚からの発想で」とあります。「この疑問」とは3段落の「この土器はなぜ完全なままで捨てられたのだろうか」ということです。2段落にあるように「土器は、壊れて捨てられた状態で発見される場合が圧倒的に多い」ので、完全なままで捨てられていることに疑問を持つのです。つまり、「私たちと同じ考え」とは「道具は壊れてから捨てるという考え」になります。
- 問二 傍線(2)の「たしかに」は「はっきりとは言い切れないものの、そうであると思われるさま」を表し、「おそらく、たぶん」という意味合いを含んでいます。「エ」が正解です。その他は「まちがいがなく」という意味です。
- 問三 (ア) 疑問ですから「～か」という問いかけの形の文を探します。すると、一つめは3段落の「この土器はなぜ完全なままで捨てられたのだろうか」が見つかります。
(イ)、二つめは、6段落の「なぜたくさん土器が一か所に捨てられたのだろうか」になります。
- 問四 (ア) 土器がなぜ完全なままで捨てられたのかについて、小林達雄氏の考えは8段落に「土器の文様を新しいものに変える時に、それまで使っていた土器をモデルチェンジの目的でいっせいに捨てた」とあります。それに対して筆者の考えは、9段落の「土器を煮炊きに使っていくと、もっとも赤く焼けた部分に細かい亀裂が入り、やがて煮炊きの効率が低下してしまう」から読み取れます。外見はともかく、機能が低下して使えなくなったから捨てたと考えていることになります。つまり、小林氏は使えるのに捨てた、筆者は使えなくなったので捨てたという意見の違いになります。
(イ) 小林達雄氏の考えは(ア)と同じように8段落に「モデルチェンジの目的でいっせいに捨てた」とあり、筆者については7段落に「あたりかまわず捨てたのではなく、ムラのなかの決まった場所に集めた」とあります。
- 問五 この問いは、問四で注目した筆者の意見が読み取れる段落を答えればいいのです。(ア)は9段落で、(イ)は7段落でしたね。
- 問六 「土器の一生のうちで、その〈最後の場面〉を発掘によって発見する～その発見の場面からさかのぼって、土器が作られた場面まで立ちもどって復元してみる」とあるところから考えます。発掘の直前に土器の〈最後の場面〉があるのですから、「捨てられるとき」が正解です。
- 問七 5段落に「土器の大半が道具として使われていたものであることが、こうした文様や形以外の特徴を観察することによってわかる」とあるので、傍線(4)の「生活の道具として縄文土器を考える」とは、「文様や形」を考えるのではなく、「土器がどのように道具として作られ、使われてきたか」を考えることになります。

二

- 問一 傍線(1)の2行前に「車の処置のことで頭がいっぱいのようだ」とあります。つまり、母はキーをさしたまま車のドアを閉めてしまったので、どうしたらいいかを考えて頭がいっぱいなのに、慎がさっさと学校に行かず「でも」と言ってもたもたしているのだからいらいらしてしまったのですね。傍線(1)の5行後の『「でも、いったいなんなのさ」母の苛立ちはどんどん高まっていた」も手がかりになります。
- 問二 本当のことを言うとなんかどうなるかを考えてみましょう。本当のこととは、手提げに手塚治虫のサイン本が入っていることです。母にサイン本が見つければ、どうして学校に持っていくのかと問われ、友達に命令されていることがばれてしまいます。それをおそれて嘘をついたのです。
- 問三 「飲み込む」には「こらえて口の外に出さない」という意味と「理解・納得する」という意味がありますが、傍線(3)が前者で傍線(4)が後者になります。
- 問四 慎が嘘をついているとわかっているのに、追及しない母の気持ちをまず考えます。祖父のことで不自由をさせているために、日頃から母は慎にすまなく思っているはずですから、母は嘘を見逃してくれたのだらうと思えば、そんな母にこれからはできるだけ苦勞をかけないようにしたいと思ったのでしょう。

三

- 問一 「何のどのような様子」かを問われていますが、題名の「母はサボテンが好きだ」から、まず「サボテン」のことだとわかります。後は「ぬぼーっと」の説明を考えればいわけです。「ぬぼーっとしている」とはどのような感じが想像できるでしょうか。のんびりしているのどかな様子ではないでしょうか。母はサボテンが好きなのですから、悪い意味にはなりません。
- 問二 「何がかわいいって／手がかからない所よ」を手がかりにします。日頃から母には手がかかる人がいて、時々その不満が口に出してしまうのでしょう。しかし、その不満を聞いてくれる人が身近にいないので、サボテンに話しかけているのです。
- 問三 問二で考えた手がかかる人とは、「父」と「私」なのでしょう。サボテンの「何がかわいいって／手がかからない所よ」とは、いいかえれば、「父」と「私」は手がかかると言われていたようなものですから、それに気がついた「私」は、「父」を見てその気まずさを共有したかったのです。